

# 地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成プロジェクト 2023 年度シラバス

---

## 目次

A 1	意義・概念・波及効果	1
A 2	新技術の地域への適用と評価	1
B 3	課題整理・仮説設定・調査	2
B 4	オンデマンド型交通	2
C 5	協議会運営・会議資料	3
C 6	タクシーの活用	4
D 7	目的と評価	5
D 8	鉄道の活用	6
E 9	評価指標の決め方と改善	6
E 10	ソフト施策（情報発信、案内、MM、利用促進）	7
F 11	福祉との連携	7
F 12	プロデュース	8

## A 1 意義・概念・波及効果

### 概要

なぜ地域公共交通が必要で、なぜ自治体が主体的に取り組まなければならないのか。そもそも地域公共交通とはどのようなもので、それをリ・デザインすることで地域にどのような効果もたらされるか。2007年に施行された地域交通法の理念を理解し、それを活用することによって地域公共交通政策を進めることの必要性、そしてそのために注意すべき点について説明するとともに、地域公共交通政策「5つの鉄則」を理解していただくことを狙いとします。

### 講師

加藤 博和（名古屋大学大学院環境学研究科 教授）

### 到達目標

- 地域公共交通の定義、必要性、自治体・交通事業者に求められる役割、リ・デザインを進めるための注意点を理解し、現場での実践にどうつなげられるかを考えること
- 地域公共交通政策「5つの鉄則」を理解し、法定協議会にてどのようにそれを実現していくかを考えること

### 参考資料

- 家田仁、小嶋光信監修、三村聡、岡村敏之、伊藤昌毅編：地域モビリティの再構築、薫風社、2021.8
- 自治大学校における研修講義の紹介 地域を持続可能とする公共交通維持・確保策  
【前編】 [https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000796699.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000796699.pdf)  
【後編】 [https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000796707.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000796707.pdf)

## A 2 新技術の地域への適用と評価

### 概要

自動運転、AI オンデマンド交通や MaaS 等、新しい技術を用いたモビリティサービスが提案されている。これらの技術は地域公共交通の利便性の向上に資するものであるが、そのためには地域の状況に即した選択が必要である。本講義では、選択をする上で必要となるポイント、サービス提供者との協議方法、実証試験時の評価手法について学ぶ。

### 講師

井原 雄人（早稲田大学スマート社会技術融合研究機構 研究院客員准教授）

### 到達目標

- 新技術を用いたモビリティサービスの特性を理解し、地域に合わせた選択方法を習得する
- 導入時の評価手法について習得する

### 参考資料

- 地域公共交通のトリセツ「[やりっぱなしの実証実験にしないためにはどうしたら良いですか？](#)」
- 地域公共交通のトリセツ「[自動運転っていつ実用化するの？～新しい技術の受け入れ方](#)」

## B 3 課題整理・仮説設定・調査

### 概要

適切な公共交通計画を行うためには、計画手法の知見が必要不可欠である。本講義では、一般的な計画学における計画手順を学習するとともに、公共交通に適用する際の工夫について学修する。また、計画を実施するためには適切な調査も必要不可欠である。調査方法について学修する。さらに、調査の実施においては、仮説の設定が必要不可欠である。仮説の設定から調査事項の構築に向けた知見を学修する。

### 講師

猪井 博登（富山大学都市デザイン学部 准教授）

### 到達目標

- 計画づくりの手順や、その公共交通計画への適用について理解する
- 調査手法に関する知識と、その選択におけるポイントについて理解する
- 社会的調査の実施方法について理解する

### 参考資料

- 図説 わかる土木計画 - 学芸出版社、新田 保次監修、松村暢彦 編著
- SUMP「持続可能な都市モビリティ計画の策定と実施のためのガイドライン」日本語訳、宇都宮浄人、柴山多佳児監訳、<https://chikoken.org/information/sump/>
- 「移動の仕組みづくり8 STEP-START BOOK-」<https://chimobi-toyota-mf.jp/blog/?id=55>

## B 4 オンデマンド型交通

### 概要

定時定路線型のバスサービスでは非効率な運行となる場合や、身体能力の低下した高齢者の外出支援策として導入が進んでいるオンデマンド型交通であるが、その特性を十分に理解しなければ期待した効果を得ることはできない。本講義では、オンデマンド型交通の特性と、その導入適性について学ぶ。

### 講師

福本 雅之（名古屋大学大学院環境学研究科 特任准教授）

### 到達目標

- 交通モードとしてのオンデマンド交通の特性について習得する
- オンデマンド交通の導入可否について判断するための知識を習得する

### 参考資料

- 地域公共交通のトリセツ「オンデマンド交通の導入を検討する方へ」  
<https://kotsutorisetsu.com/primaly/drt/>

## C 5 協議会運営・会議資料

### 概要

地域公共交通の「リ・デザイン」やプレイヤー間の「共創」を図るためには、協議会の実質化が不可欠である。本講義では、道路運送法上の地域公共交通会議や地域交通法に基づく法定協議会を主たる対象として、協議会の機能や重要性について解説するとともに、プレイヤーの参画を促すための運営手法や資料づくりについて、受講者とともに考える。

### 講師

吉田 樹（福島大学経済経営学類 准教授／前橋工科大学学術研究院 特任准教授）

### 到達目標

- 地域公共交通会議や法定協議会の機能や重要性を理解する
- プレイヤーの参画を促すための運営手法や資料づくりを理解する

### 参考資料

- 国土交通省総合政策局地域交通課「地域公共交通計画等の作成と運用の手引き 入門編」  
[https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei\\_transport\\_tk\\_000058.html](https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000058.html)
- 中部運輸局「地域公共交通会議等運営マニュアル～第3改定版～（R02年度改訂版）」  
同「活発で良い議論ができる会議のために（H27年度発行）」  
<https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/library/index.html>

## C 6 タクシーの活用

### 概要

公共交通の一つにタクシーがある。バスや鉄道とはその輸送特性は大きく異なり、公共交通として認識されていない事例も散見される。しかしながら、地域交通において重要な役割を果たしうるものであり、近年はその輸送特性から他の交通機関を補完するような様々な輸送サービスが提供されている。本講義では、タクシーの長所や短所などの特性、主に地方都市における活用事例について学ぶ。

### 講師

日野 智（秋田大学大学院理工学研究科 准教授）

### 到達目標

- 公共交通としてのタクシーの特性、現在のタクシーが抱えている課題を理解する
- 地方都市におけるタクシーを活用した輸送サービスを提供する上での留意点を理解する

### 参考資料

- 国土交通省；一般乗用旅客自動車運送事業（ハイヤー・タクシー事業）  
[https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha\\_tk3\\_000033.html](https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_tk3_000033.html)
- 国土交通省；委員会・検討会（タクシー事業）  
[https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha\\_fr1\\_000056.html](https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_fr1_000056.html)
- 鈴木 雄, 日野 智；タクシー運賃の価格感度とサービス評価に関する研究, 都市計画論文集, 51 巻 36 号, pp.673-679, 2016
- 鈴木 雄, 日野 智, 前田 悠抄；タクシー運賃の割引率が高齢者の外出行動へ与える影響に関する研究-秋田交通圏のタクシー利用者を対象として-, 都市計画論文集, 52 巻 3 号, pp.795-801, 2017
- 鈴木 雄, 日野 智, 茂木 侑生；月額制タクシー定期券に対する地方都市高齢者の需要評価-秋田県秋田市を例に-, 土木学会論文集 D3(土木計画学), 76 巻 5 号, p.I\_1023-I\_1033, 2020

## D 7 目的と評価

### 概要

地域公共交通計画の策定あるいはその進捗管理を進めていくうえで、地域公共交通の活性化のための施策を実施する上で、地域公共交通活性化やそのための計画がどのような目的を持つものとして設定されるかが大変重要である。また、その評価を適切に行っていくことも必要である。本講義では、これら目的設定および評価において重要になる考え方やポイントを理解し、政策に活かしていくことを狙いとす。

### 講師

大井 尚司（大分大学経済学部門 教授）

### 到達目標

- 地域公共交通活性化、あるいは地域公共交通計画策定にあたっての目的設定の意義と留意点を理解すること
- 設定した目的、あるいはそれに基づく実施政策の評価について、留意点を理解し実践に生かすヒントを得ること

### 参考資料

- 国土交通省九州運輸局『なるほど！！公共交通の勘どころ』（概要版もありますが本編を推奨）  
本編：<https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/content/000272886.pdf>
- 国土交通省九州運輸局『地域公共交通のはじめの一步！』  
<https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/content/000014361.pdf>  
（注）編集年次が少し古いため、制度等は現状のものと異なりますので注意してください。
- 国土交通省『地域公共交通計画等の作成と運用の手引き』  
[https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei\\_transport\\_tk\\_000058.html](https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000058.html)  
※入門編・詳細編がありますが、初めての方は入門編を読んでから詳細編に進んでください。
- 大井尚司(2004)「交通政策基本法の理念を受けた交通事業者と自治体の連携のあり方」『運輸と経済』74 巻 6 号（2014 年 6 月号）、pp.49-57

## D 8 鉄道の活用

### 概要

コロナ禍によって JR の地方路線の存続問題が顕著となったが、それ以前から、地域が積極的に関与しない限り、サービスレベルの低下と利用者減少の悪循環は止められない状況にあった。自治体の支援による上下分離などの鉄軌道の運営形態や維持するしくみについて、地域との「共創」を図っている富山県の万葉線や、京都府の京都丹後鉄道の事例を踏まえて受講者とともに議論する。

### 講師

松原 光也（名古屋大学大学院環境学研究科 研究員）

### 到達目標

- 国の鉄軌道に対する支援策や法制度を理解する
- 行政、事業者、市民が連携して公共交通を維持するしくみについて理解する

### 参考資料

- 国土交通省費用便益マニュアル（令和4年2月）  
[https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-hyouka/ben-eki\\_2.pdf](https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-hyouka/ben-eki_2.pdf)  
地域鉄道に対する国の支援制度  
[https://www.mlit.go.jp/tetudo/tetudo\\_tk5\\_000001.html](https://www.mlit.go.jp/tetudo/tetudo_tk5_000001.html)

## E 9 評価指標の決め方と改善

### 概要

ある事業を実施する場合、その成果を測定するための評価が必要であり、地域公共交通も例外ではない。しかしながら、評価が形式的なものにとどまっている事例も散見される。本講義においては、地域公共交通の評価を行う視点について理解した上で、適切な評価指標の選択方法、評価結果を改善に結びつけるための仕組み作りについて学ぶ。

### 講師

福本 雅之（名古屋大学大学院環境学研究科 特任准教授）

### 到達目標

- 地域公共交通を評価する視点を習得する
- 適切な評価指標を選択するための知識を習得する
- 評価結果を改善に結びつける仕組みを習得する

### 参考資料

- 地域公共交通のトリセツ 評価関連記事リスト <https://kotsutorisetsu.com/category/assessment/>
- 国土交通省中部運輸局「地域公共交通に関する事業評価の手引き」  
[https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/library/pdf/R4\\_hyouka.pdf](https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/library/pdf/R4_hyouka.pdf)

## E 1 0 ソフト施策（情報発信、案内、MM、利用促進）

### 概要

検討の結果実現した地域の交通サービスは、実際に使ってもらえなければ意味がない。単に広報を行えば利用に繋がるわけではなく、認知・判断・行動の意思決定プロセスに即した情報提供を行うことが重要である。地域交通サービスの目的に照らし合わせた、実際の利用に繋がる情報提供等のコミュニケーション方策について論じる。

### 講師

神田 佑亮（呉工業高等専門学校環境都市工学分野 教授）

### 到達目標

- 人々の意識・行動変更のメカニズムの概要について理解する
- モビリティ・マネジメントの基本的な考え方について理解する
- 情報発信や利用促進のターゲット設定と具体的な方法を知る

### 参考資料

- 日本モビリティ・マネジメント会議 HP（<https://www.jcomm.or.jp>）  
※国内外のモビリティ・マネジメントの事例多数
- 藤井聡・谷口綾子・松村暢彦 編著「モビリティをマネジメントする-コミュニケーションによる交通戦略-」学芸出版社

## F 1 1 福祉との連携

### 概要

移動制約者（高齢者や障害者等）が気兼ねなくおでかけできる交通環境を構築するには、対象者の実態を理解したうえで、様々な移動サービスの特徴を活かした計画策定が望まれる。そこで、対象者の特徴、現行の制度やサービスの実態、社会的な障壁（バリア）による制約の実態を理解し、地域公共交通において福祉との連携の糸口を探る方法について学ぶ。

### 講師

樋口 恵一（大同大学工学部建築学科土木・環境専攻 准教授）

### 到達目標

- 地域公共交通の利用者である移動制約者の実情を理解する
- 分野・サービスの狭間を理解し、連携に必要な視点や方法を習得する

### 参考資料

なし



## F12 プロデュース

### 概要

様々なプレイヤーが参画してリ・デザインし、多くの方々にご利用・ご愛顧いただける地域公共交通を実現するために最も必要なのは、メンバーが目的を共有し、そのために必要な行動をとり、現場で地域公共交通を組みなおしていくため、実現すべきものを具体的にデザインし、全体をコーディネートしつつプロジェクトを進める「プロデューサー」である。しかしそれができる人材が日本にほとんどいないことが大きな障壁であり、本プロジェクトが想起された動機でもあります。地域公共交通プロデューサーに必要な態度、知見、行動について説明し、それになるために何が必要なのかについて一緒に考えます。

### 講師

加藤 博和（名古屋大学大学院環境学研究科 教授）

### 到達目標

- 地域公共交通リ・デザインを進めるために必要なプロデュースのスキルについて理解すること
- 法定協議会を活用した地域公共交通プロデュースの進め方を習得すること

### 参考資料

- 家田仁、小嶋光信監修、三村聡、岡村敏之、伊藤昌毅編：地域モビリティの再構築、薫風社、2021.8
- 加藤博和：地域公共交通をプロデュースする –それは、ライフスタイルを提案すること、ていくおふ（ANA 総合研究所発行）、No.149、pp.4-11、2018.1 <当日配布予定>